

チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)

——“壁・柱・梁・垂木”等を表わす語彙について——

大岩 昭之

1 はじめに

チベット語で「家」を表す語彙は khang pa であり、「部屋」は khang mig である。「図書館・書店」は dpe khang、「商店」tshong khang、「監獄」btson khang であり、「寝室」は gzims khang である。又、「寺院・仏殿」は lha khang、「経堂」は'du khang である。このように「家」をあらわす[形態素] khang はチベット語の“建物”を表す語彙に非常に多く使われている。チベット人はこれらの khang を同じものとして捉えていたわけでは無いだろうが、他の語彙もある中で、多く khang を使っていたのは事実であり、チベット人の建物に対する概念の一面を示しているとも言えよう。これらに関しては拙稿「チベット語に於ける“建物・家・すまい”を表す語彙について」(大岩 2001) 及び「チベット語に於ける“寺院”・“城塞・宮殿”を表す語彙について」(大岩 2002) で考察した。本研究はチベット“建築”そのものをチベット語の語彙から考察してみる。

2 研究の目的

チベット建築は一般的には、壁は石積・日干しレンガ又は土壁(版築)であり、柱・梁は木製である。それに屋根は平らな陸屋根で、壁の窓は小さい。石積壁・日干しレンガ壁、或いは陸屋根の建物はチベットだけのものではない。しかしチベット建築はこれらの特徴を発展させた世界でも類を見ない民族建築を造っている。このようなチベット建築に対して、チベット語での正確な表記、そしてその語彙を分析することにより、チベット建築の特徴を明らかにする。同時に、チベット人の建築に対する思惟方法をチベット語の語彙を通して考察するのが本研究の目的である。なお、本稿は建物の“壁・柱・梁・垂木”等を対象とし“屋根・窓・女牆(parapet)・階段”など他の部分は続報で述べる予定である。

3 研究の手法

本研究の手法は拙稿「チベット語辞書からの建築関連語彙の分析手法とその分析事例“テント”について」(大岩 1999) に基づいているので、詳しくはそちらを参照していただきたい。ここでは簡単に述べる。

——チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)——

表-1・1 語彙のランク分け

ランク	収録辞書数
sA	7 辞書全部に収録
A	6 辞書
B	4~5 辞書
C	2~3 辞書
D	1 辞書のみ

表-1・2 各ランクの語彙数

ランク	語彙数	%
sA	126	3.0
A	159	3.7
B	472	11.1
C	1,452	34.0
D	2,059	48.2
計	4,268	100.0

本研究はチベット語の建築関連語彙を研究対象にしている。語彙の収集は、過去に出版された蔵英、蔵漢の主要な7辞書《C》《J》《D》《蔵》《大》《G》《拉》から採取している。これらの辞書から建築関連語彙4,268語（延べ9,398語彙数）採取し、それらを、350項目に分類している。分類した語彙はデータベース化する。この場合、先に述べた要素〔形態素〕でも抽出できるようにしている。例えば「家」を表わすkhangなどを〔形態素〕として抽出する。多くの辞書に収録されている語彙は当然その重要度は高いと言えよう。それで表-1・1のように語彙を収録頻度によりsA~Dの5段階にランク分けを行っている。sA, Aランクの語彙は285語で全体の6.7%であり（表-1・2）、これらは基本語彙とみていいだろう。又、比較的口語として使われる語彙は〔現代語〕⁽¹⁾ (m)として、区別するようにしている。なお、3辞書《翻譯》《五体》《N.G》⁽²⁾も参照している。

4 語彙の分析

(1) 【壁】語彙の分析

表-2 【壁】語彙と【壁】(形態素) 語彙数

(形態素) 語彙	壁語彙 [形態素-A] (総数 44) ⁽³⁾				全語彙 [形態素-B] (総数 94)*			
	語彙数	sA, A	B	m	語彙数	sA, A	B	m
rtsig	18	(2)	(2)	(4)	60	(4)	(8)	(19)
gyang	7	(1)		(2)	30	(2)	(3)	(16)
skya	3		(1)	(1)	8		(1)	(2)
計	28	(3)	(3)	(7)	98	(6)	(12)	(37)
計 (語彙の実数)	24	(3)	(3)	(4)	94	(6)	(12)	(34)
上記以外 (他語彙)	20	(0)	(4)	(0)				

*全語彙 4268 中

「壁」を表わす語彙の〔形態素〕語彙は表-2であるが、〔形態素-A〕は「壁」語彙の〔形態素〕語彙数であり、〔形態素-B〕は全語彙（4268語彙）中の〔形態素〕語彙数である。〔形態素-A〕としては、rtsig（語彙数：18）とgyang（7）であるが、〔形態素-B〕では、それぞれrtsig（60）、gyang（30）でrtsigがかなり多いことが分かる。〔形態素〕としては多くはないがskya（3）も入れている。まず「壁」の基本語彙（表-2・1）としての、rtsig pa（sA）であるが（以下の（sA）などは語彙のランクを表わす）であるが、このpaは語尾辞でこれ

—チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)—

には意味がない。rtsig (B) で「築く・壁」の意味がある。「石積壁」は rdo rtsig (A) (rdo 「石」) であり、「レンガ壁」は pag rtsig (B)、phag rtsig (D) である。このように rtsig は「石積壁」・「レンガ壁」のような“築く壁”を表わしている。又、rtsig gu (C) も「壁」であるが、これは《大》によれば rtsig pa の古語とされている。

表-2・1 【壁】語彙例

語彙	ランク	意味
gyang	sA	壁、土壁
rtsig pa	sA	壁
rdo rtsig	A	石壁
skya	B	壁、隔壁
chod	B	隔壁
pag rtsig	B	レンガ壁
rtsig	B	建てる、壁
gyang rtsig	Cm	壁 (土壁と石壁)
gying	C	土壁
rgyang	C	壁、(距離)
'chog	C	壁
bar skya	C	間仕切壁
rtsig gu	C	壁
logs	C	壁、表面
gyeng	D	土壁
sdebs	D	壁
phag rtsig	D	レンガ壁
pang bkag	D	木板間仕切壁

表-2・2 【壁】(形態素) 語彙例

語彙	ランク	意味
rtsig ngos	sA	壁面
rtsig gzhi	A	壁の基礎
rtsig rdo	B	基礎石
rtig dpon	B	棟梁
rtsig bzo ba	B	レンガ工、石工
rtsig mkhan	C	石工
rtsig ldebs	Cm	壁面
gyang ris	A	壁画
gyang gog	B	廃屋、廃壁
gyang sgrom	B	版築用の木板
gyang rgyug	Cm	版築工具
gyang ngos	Cm	壁面
gyang rdung	Cm	壁を打つ
gyang ldebs	Cm	壁面
gyang rim	C	版築の一つの層
gyang ro	Cm	廃壁
gyang phreng	D	版築板の数 (高さ)
skya ldebs	D	壁面

これに対してもう一つの基本語彙である gyang (sA) は「版築壁・土壁」を表わす語彙であり、表-2・2 の語彙例 gyang sgrom (B) 「版築用の木板」、gyang rim (C) 「版築の一つの層」、gyang phreng (D) 「版築板の数 (高さ)」などの語彙がある。史料にも前ボクラ宮の記述に「牆高約三十版土牆重疊之度」(『王統記』58) とあるが、これは壁の高さを表わしている。又、rtsig gzhi (A) 「壁の基礎」(gzhi 「基礎」)、rtsig rdo (B) 「基礎石」などの「基礎」に結びつく語彙は rtsig である。さらに、rtsig dpon (B) 「棟梁」(dpon 「かしら」)、rtsig bzo ba (B) 「レンガ工、石工」(bzo ba 「労働者」) などのように「職人」の語彙も rtsig の語彙である。これらには gyang の語彙はない。このように rtsig と gyang の使われかたは明確に区別されている。

「壁」を表わす [形態素] 語彙として取り上げた skya (B)、これは「隔壁」などを表わす語彙である (語彙数: 8)。bar skya (C) で「間仕切壁」(bar 「あいだ」) である。

「壁面」を表わす語彙には ldebs (sA) があるが rtsig ldebs (Cm)、gyang ldebs (Cm)、skya ldebs (D) でも「壁面」である。又、rtsig ngos (sA) (ngos 「表面」)、gyang ngos (Cm) も「壁面」である。「壁面」では rtsig、gyang、skya が区別なく使われている。「壁画」は gyang [形態素] の語彙 gyang ris (A) (ris 「図」) である。「壁」を表わす語彙は他

—チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)—

には表2・1にあるように「隔壁」として chod (B)、又、gyang と同じとして gying (C) 「土壁」、rgyang (C) 「壁」、gyeng (D) 「土壁」がある。他にも 'chog (C)、sdebs (D) も「壁」である。このように「壁」を表わす語彙は多くある。又、チベットでよく目にする「廃屋・廃壁」は gyang gog (B) (gog 「朽ちる」) であり、「廃壁」gyang ro (Cm) (ro 「廃物」) である。チベット語の辞書には「廃土」sa ro (C) (sa 「土」) 「廃土・廃石」sa ro rdo ro (Cm) (rdo 「石」) の語彙はあっても「廃材」の語彙は見つからない。チベットでは材木は貴重なものであり「廃」にはならないだろう。なお、《N.G》には shing ro (shing 「木」) は「鉋屑」として記載されている。

《大》によると gyang は<漢語>からとされている。ちなみに「壁」は中国語で「牆 (qiang)」である。《翻訳》に rtsig は収録されているが、gyang は収録されていない。又、《五体》にも rtsig は収録されているが、gyang は〔形態素〕語彙として、特殊な壁の一例 (gyang gshog 「八字牆」) で収録されているだけである。いわゆる「版築壁」の語彙には rdung ba 「筑土牆」として収録されている。又、gyang は現代語 (m) としても 53% と多い。なお、チベット建築にも東チベットでは校倉壁の木造の壁がある。これらの壁の語彙は対象とした7辞書には収録されていなかったが、チベット建築の一つの壁の形態である。

(2) 【柱】語彙の分析

表-3 【柱】語彙と【柱】〔形態素〕語彙数

(形態素) 語彙	柱語彙〔形態素-A〕 (総数 27) ⁽⁴⁾				全語彙〔形態素-B〕 (総数 68) *			
	語彙数	sA, A	B	m	語彙数	sA, A	B	m
ka	22	(1)	(3)	(1)	68	(5)	(12)	(7)
上記以外 (他語彙)	5	(0)	(2)	(0)				

*全語彙 4268 中

「柱」を表わす表-3〔形態素〕は ka だけである。〔形態素-A〕語彙数は 22 語彙であるが、〔形態素-B〕は 68 語彙と多くの関連語彙を作っている。表-3・1 を見ても分かるように「柱」を表わす基本語彙は ka ba (sA) である。ka (B) も「柱」であるが、これは ka ba と同じ語彙である。他には gdung 'degs (C) (gdung 「梁」+ 'degs 「支える」) があるが、これは「柱」よりも、むしろ“(梁を) 支える”の意味が強い。ka ba に関してはチベット東部 (四川省・木雅チベット族) の調査 (井上 2000, 114) やザンスカール (インド北西部) の言語調査 (Hoshi 1978) にも記載されている。又、ka の〔形態素-B〕は 68 語彙あり、これは他の語彙に比較しても多く、現代語 (m) は一割程度 (10%) である。当然、《翻訳》《五体》にも収録されている。これらのことから ka ba は広く使われていて、古くから変わらない語彙であり、チベット語では「柱」は ka ba と言って差し支えない。チベット語では「壁」の語彙でもわかるように一般的には多くの言い方がある。しかし「柱」を表わす語彙はほぼ一語語彙であり、これは特殊とも言える。

「柱」〔形態素〕の語彙例 (表-3・2) には「柱の基礎」の語彙とし ka rten (A)、ka gdan (A)、などがある。この rten は「支える」、gdan は「敷物」の意味である。又、ka 'phan

—チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)—

(A) はチベット寺院内で柱に懸かっているのを、よく目にする「柱面幡」であり、'phan は「幡」である。ka sked (B) は「柱身」(sked「腰」)で、ka can (B) は「柱のある(家)」(can「ある」)である。ka mang ma (B) は「多柱大殿」(mang「多い」)であるが、チベット建築での大空間は柱が多くなる。例えばデブン寺のツォクチェン(大経堂)は面積約1800m²、柱が184本もある(西藏布達拉宮維修工程施工辦公室 上1996, 36)。「テントの支柱」も ka ra (B) 又、ka rgyug (B) (rgyug「棒」)である。

表-3・1 【柱】語彙例

語彙	ランク	意味
ka ba	sA	柱
ka	B	柱
gdung 'deg	C (B)	柱、(基礎)
ka ba bum pa can	C	宝瓶柱

表-3・2 【柱】(形態素) 語彙例

語彙	ランク	意味
ka rten	A	柱の基礎、柱石
ka gdan	A	柱の基礎
ka 'phan	A	柱面幡(柱飾)
ka sked	B	柱身
ka rgyug	B	テントの支柱
ka can	B	柱のある
ka dbrag	B	柱間
ka mang ma	B	多柱大殿
ka ra	B	支柱(テントの)
ka chen	C	主柱
ka chen bzhi ⁽⁵⁾	C	四大弟子
ka ba zur brgyad pa	C	八角形の柱

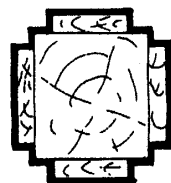


図-1 八角柱 出典：陳 1986

チベット建築の特徴の一つは多角形柱(亞字形柱)の使用である。ka ba zur brgyad pa (C) は《J》《D》で見られるが、中国文献ではこの語彙を「八楞柱」(ka ba「柱」+zur「角」+brgyad pa「八」)としている(陳 1986, 266)(図-1)。多角形柱ではこの形が多くは見られるが、さらに角を増やしている柱もある⁽⁶⁾。これらの多角形柱は一般的に使われるという事ではなく、門廊などで使われている。この場合、内部の柱に比べて門廊の柱スパンが長くなっているわけではない。したがって、構造的に柱断面積を大きくするというよりは、装飾的な要素の方が強いだろう。

ka ba bum pa can (C) は大昭寺(チョカン)内の釈迦仏殿前の四本柱の一本、「宝瓶柱」である(他に「獅子頭柱」などがある)。これらの語彙は《D》《大》に、又《N.G》にも収録されている。ka chen (C) は「主柱」(ka「柱」+chen「大きい」)であるが、ka chen bzhi (C) では(bzhi「四」)「四柱弟子」である。これはマルパ⁽⁷⁾の弟子、ミラレパなど4人の弟子⁽⁸⁾を示している。このように柱の固有名詞が辞書に掲載され、「四大柱」で特定の聖人を

——チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)——

示しているのは、ka「柱」語彙の重要性を表わしているとも言える。

表-4 【(部屋の) 広さ】語彙数

(形態素) 語彙	広さ (総数 10) ⁽⁹⁾			
	語彙数	sA, A	B	m
ka	5		(2)	(1)
上記以外 (他語彙)	5	(0)	(0)	(2)

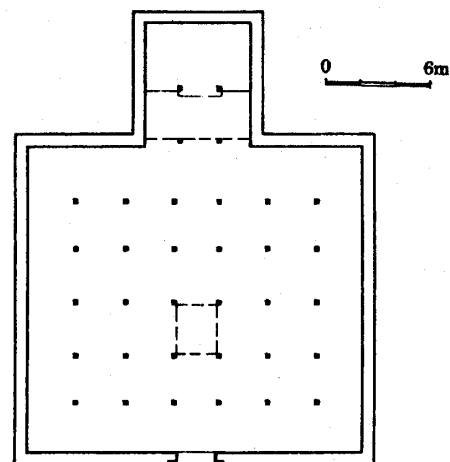


図-2 古格王国・白宮

出典：西藏工業建築勘测設計院 1988

表-4・1 【(部屋の) 広さ】語彙例

語彙	ランク	意味
ka gcig sgo gcig ma	B	柱一本、入口一つの家
ka gcig ma	B	一本柱の家
ka gcig lcang gang ma	Cm	一本柱の控えの間
ka mig	C	柱間面積
ka bzhi gdung brgyad	D	四柱八梁
khang pa lcang gang ma	D	柱がない (垂木の長さの) 部屋

表-4 は【(部屋の) 広さ】等を表わす語彙の〔形態素〕語彙数であり、表-4・1 はその語彙例である。これらの多くは「柱」〔形態素〕ka の語彙である。チベット建築においては、柱は部屋の広さを表わす一つの単位になっている。これは ka mig (C) という語彙で表わされている。ka mig は《大》のチベット語の説明によれば「チベットの習慣として建物 (部屋) の広さは柱一本面積 (単位) として計算する」⁽¹⁰⁾、そして中国訳で「柱間面積」としている。柱が面積を表わす単位であるためには柱の間隔がある程度決まっている必要がある。チベット建築の場合は日本建築などの場合と違って大きな屋根を架けるということがない。陸屋根であるために荷重は均等に分布される。従って柱もほぼ均等に配置される。図-2 は寺院の平面図 (西藏工業建築勘测設計院 1988, 115) であるが、柱は整然と並んでいる。柱が広さを表わす為には、柱の間隔が問題となってくる。中国文献では柱の基準間隔は約 2 m の記載が見られる (黄 1981, 64; 鄒 1992, 87)。しかし、これはあくまで住居などの場合であり寺院などでは、もう少し大きい間隔を採っている。筆者が実測した寺院 (ツェロク寺院、マルファ・ネパール) (Corneille 1981, 74) (写真-1) のドウカン (勤行堂) は 4 本柱であるが、その間口方向は 2.05m、3.25m、2.0m、奥行き方向で 2.7m、3.1m、3.4m であった。

—チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)—

柱スパンが4 mを超えることはポタラ宮の一部では見られるが、一般的にはあまりない。そして柱を飛ばしているのも、一部吹抜けにしている所以外はほとんど無いのも、柱が広さの単位となっている理由であろう。

ところで、「柱間面積」は ka mig と述べたが、なぜ mig 「目」なのだろうか。チベットでは「基・基盤」を mig mangs (mig 「目」+mangs 「多い」) という。前述の寺院の平面図を見ると柱の並びは基盤の目と関係が無いとは言えないだろう。

ka gcig ma (B) は「柱一本の部屋」を言う。これは (ka 「柱」+gcig 「一」) (ma は接尾語) である。同じような意味で「柱一本、入口一つの部屋」で ka gcig sgo gcig ma (B) (sgo 「入口・戸」) という語彙もある。《N.G》では 'a small or poor house' の説明がある。「柱」の〔形態素〕の語彙ではないが、より狭い部屋は khang pa lcang gang ma (D) 「柱がない(垂木の長さの) 部屋」という語彙がある。この lcang は後で述べる「垂木」の意味であるが、柱も梁も無い部屋で「垂木」の長さ(2 m ぐらいまでの)の幅の部屋である。これはポタラ宮の下層階で、いわゆる「地龍壁」(厚い壁が並んで配置されている)になっているところでも見られる。

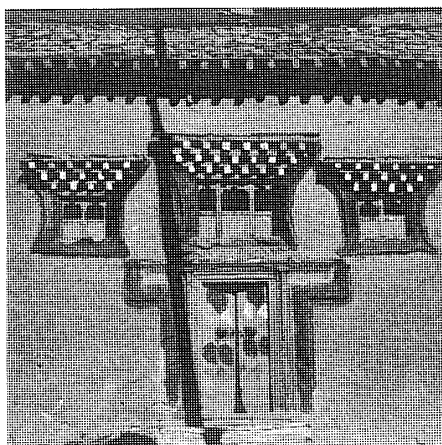


写真-1 ツェロク・ゴンバ

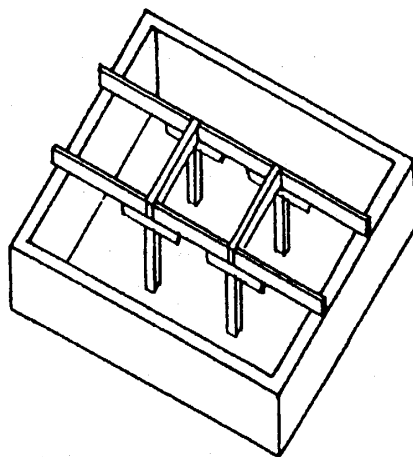


図-3 四柱八梁 出典：屠 1985

チベット建築では、4 本柱の部屋(建物)は、よく見られる。ka bzhi gdung brgyad (D) は「四柱八梁」(ka 「柱」+bzhi 「四」+gdung 「梁」+brgyad 「八」) という語彙である。これは図-3 (屠 1985, 23) のように4本の柱上に8本の梁が架かっているものである。この形式は、ポタラ宮白宮門廊の4本柱のような所でも採用されている(西藏自治区文物管理委员会 1985, 写真 20)。この語彙は《N.G》では「良い部屋や家」との説明もある。「四柱八梁」はチベット建築の一つの形式を表わしている。

(3) 【柱頭・肘木】語彙の分析

チベット建築は柱上部、柱頭がありその上に肘木が載って梁を受けている。日本建築の「舟肘木」にも似ているが寺院などで使われる場合は、形態的にも大規模でありチベット建

——チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)——

築の特徴の一つでもある。初期のチベット建築、大昭寺の正殿（8世紀後期から9世紀初め）の柱頭、肘木はアジャンター石窟と類似点があると言われている（宿 1996, 6）。中国建築においては柱上部、梁を受ける部分を「雀替」と言う。しかし、この場合は柱が直接梁を受け、左右両側に「雀替」が付く。そして、チベット建築のように柱の上の肘木が梁を受ける様式を「大雀替」として「一種の過渡期の構造」と説明している文献がある（李 1985, 245）。チベットではこの“過渡期の構造”の様式が発達していった。写真-2 は青海省レゴンの寺院の門廊である。ここではチベット様式の「柱・肘木」と中国様式の「柱・雀替」の両方が使われている。

表-5 【柱頭・肘木】(形態素) の語彙数

(形態素) 語彙	柱頭・肘木 (総数 13) ⁽¹¹⁾			
	語彙数	sA, A	B	m
ka	6	(1)	(1)	
gzhu	4	(1)	(1)	
bre	3			
計	13	(2)	(2)	(0)
計 (語彙の実数)	11	(1)	(2)	(0)
上記以外 (他語彙)	2	(0)	(0)	(1)

表-5・1 【柱頭・肘木】 語彙例

語彙	ランク	意味
ka gzhu	A	肘木
ka rtse	B	柱頭
gzhu	B	肘木、弓
ka 'go	C	柱頭
ka yang rtse	C	柱頭
bre	C	柱頭
'be log	C m	短肘木
ka bre	D	柱頭
bre phul ⁽¹²⁾	D	斗拱

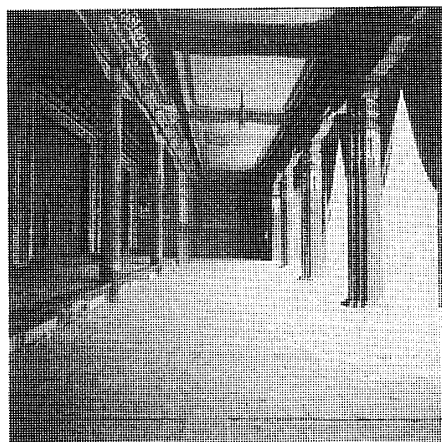


写真-2 ロンウー・ゴンバの門廊

「肘木」の基本語彙（表-5・1）には ka gzhu (A) があるが、この ka は前に述べた「柱」である。この gzhu (B) だけでも「肘木」であり「肘木」の「形態素」（表-5）でもある。なお、gzhu には「弓」の意味もある。「形態素」の語彙として他に、いわゆる「斗拱」としては bre phul (D) がある。この bre は次で述べる「柱頭」であるが「升（ます）」の意味がある。又、phul は「(升の下単位) 合」の意味である。なお、《蔵》では bre phul でなく pre phul となっているが、文献（李 1982, 写真 57）でも bre phul の使用例はあり、「升」の意味から考えても bre phul の方が妥当と思われる。

「柱頭」は先程述べた bre (C) であり、ka bre (D) (ka 「柱」) でも「柱頭」である。その他には ka rtse (B)、ka 'go (C) も「柱頭」であるが、rtse は「頂」、'go は「頭」で文字

—チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)—

通り「柱頭」である。ka gzhu「肘木」やbre phul「斗拱」は《翻訳》にも収録されている。これは先程も述べたが肘木、柱頭などはインドからの影響を受けている表れであろう。

(4) 【梁】語彙の分析

表-6 【梁】語彙と【梁】(形態素)語彙数

(形態素) 語彙	梁語彙 [形態素-A] (総数 26) ⁽¹³⁾				全語彙 [形態素-B] (総数 33) *			
	語彙数	sA, A	B	m	語彙数	sA, A	B	m
gdung	17	(1)		(3)	24	(1)	(2)	(3)
phyam	3		(1)		9	(1)	(1)	
計	20	(1)	(1)	(3)	33	(2)	(3)	(3)
計 (語彙の実数)	20	(1)	(1)	(3)	33	(2)	(3)	(3)
上記以外 (他語彙)	6	(0)	(0)	(0)				

*全語彙 4268 中

表-6・1 【梁】語彙例

語彙	ランク	意味
gdung ma	sA	梁、氏族
tal gdung	C	(柱のない) 通梁
gdung tal ma	C	通梁
bu gdung	C	小梁
beng	C	小梁
phyam rngas	C	梁 (垂木の下横木)
phyam rten	C	梁 (垂木の下横木)
lcang gdung	D	柳の木梁
gdung chen	D	大梁 (柱間の横梁)
phog	D	梁

表-7・1, 7・3 の語彙例を除く

「梁」を表わす [形態素] に gdung があるが (表-6)、[形態素-A] 語彙数は 17 語彙であり、[形態素-B] も 24 語彙とあまり多くの関連語彙を作っていない。基本語彙 gdung ma (sA) (ma は語尾辞) の他に「梁」を表わす語彙として beng (C) 「小梁」、phog (D) も「梁」である。しかし、これらには [形態素] としての語彙はない。なお、この phog は辞書《J》だけに収録されていた語彙であるが、四川省・理塘の近くの曲登で採取⁽¹⁴⁾ (工事現場で 2004 年) した「梁」を表わす語彙として使われていた。もう一つの [形態素] phyam は、phyam rngas (C)、phyam rten (C) も「梁 (垂木の下横木)」であるが、この phyam は次で述べる「垂木」であり、rngas は「枕」、rten は「支える」の意味である。これらのことから「梁」は gdung ma と言っても差し支えないだろう。なお、gdung には「氏族」とか「遺体」の意味がある。[形態素] の語彙例 (表-6・1) として tal gdung (C)、gdung tal ma (C) は共に「通梁」であるが、これは途中に支える柱のない梁のことである。tal gdung は《大》では「無柱通梁・鋼梁」と説明されている。なお、この tal は「真直ぐな」のような意味である。bu gdung (C) 「小梁」、gdung chen (D) 「大梁」の bu、chen は文字通り「小

さい」「大きい」である。lcam gdung (D) は「柳の木の梁」である。この lcam は「柳」でチベットでは比較的手に入れ易い木である。[形態素-B] の語彙には (2) 【柱】で述べた gdung 'degs (B) 「柱、基礎」又、gdung zam (B) 「丸木橋」のような語彙がある。

(5) 【垂木】・【天井板】語彙の分析

表-7 【垂木】【天井板】語彙と【垂木】【天井板】(形態素) 語彙数

(形態素) 語彙	垂木天井板語彙[形態素-A] (総数 34) ⁽¹⁵⁾				全語彙[形態素-B] (総数 106)*			
	語彙数	sA, A	B	m	語彙数	sA, A	B	m
lcam	8	(1)		(1)	11	(1)		(2)
phyam	7	(1)	(1)		9	(1)	(1)	
gral	3	(1)			3	(1)		
dral	8				8			
thog	5		(1)	(2)	79	(2)	(9)	(35)
計	31	(3)	(2)	(3)	110	(5)	(10)	(37)
計(語彙の実数)	27	(3)	(2)	(3)	106	(5)	(10)	(37)
上記以外(他語彙)	7	(0)	(0)	(1)				

*全語彙 4268 中

チベット建築の床は梁の上に横架材・垂木を並べ、その上に割った木片、又は細丸木を敷詰め、そしてアルカ (ar ka) とされる粘土質の土を突き固めて仕上げる。見上げると、垂木と木片が見え「天井」を作っている (写真-3)。床板を支えるのは日本建築においては「根太」であるので「根太」ともとれるが、この場合は天井材で、中国文献ではすべて「椽」(垂木) としているので「垂木」と名称するのが適切であろう。これらの語彙の [形態素] (表-7) としては、lcam、phyam、gral、dral、それに thog を入れたが、thog 以外は [形態素-A] も [形態素-B] もそれ程語彙の数は変わらない。これはこれらの語彙は「垂木」や「天井板」そのものを表していて関連語彙はあまり作っていないと言える。まず「垂木」を表わす基本語彙 (表-7・1) であるが、これには発音がほぼ同じである lcam (sA) と phyam (A) がある。これらの [形態素-B] としての語彙数は lcam (11 語彙)、phyam (9 語彙) である。他に「垂木」を表わす語彙として lcam shing (Cm)、phyam shing (D)、があるがこの shing は「木」である。この他には khyam (C)、drab (C) も「垂木」を表わす。なお、チベット建築の垂木は日本建築などより、かなり大きな部材を使っている。

又、寺院などの主要な部分でよく見られるのだが、「垂木」と「梁」の間に二段 (二段の場合が多い) の短い角材が入っている。この二段の角材は文献 (応 1993, 15) (図-4) では bab (D) 「短椽」(短垂木) 又、(西藏自治区建筑勘察设计院 1999, 211) では「椽頭」⁽¹⁶⁾ としている。これと同じものが、開口部の門や窓の上部に二段 (三段もある) 入って場合も多い (写真-1)。この場合は庇としての機能があるが、意匠上もチベット建築の大きな特徴の一つになっている。なお、bab は《大》によれば「門楣の一部分」と説明されている。

——チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)——

表-7・1 【垂木】 語彙例

語彙	ランク	意味
lcam	sA	垂木、妻(敬)
phyam	A	垂木
khyam	C	垂木
lcam shing	Cm	垂木
drab	C	垂木
bab	D	短垂木
phyam shing	D	垂木

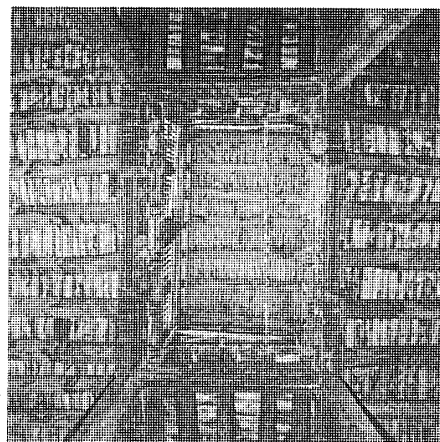
写真-3 ヘミス・ゴンパの天井
ラダック・インド

表-7・2 【天井板】 語彙例

語彙	ランク	意味
gral ma	sA	垂木上の木片
thog khebs	C	天井、屋根
thog pang	Cm	天井板
dral ma	C	垂木上の板や細丸木
gral bu	D	垂木上の木片
lcam khebs	D	天井板
dral	D	垂木上の板
dral bshags	D	垂木上の割った板
dral hril	D	垂木上の丸い木材

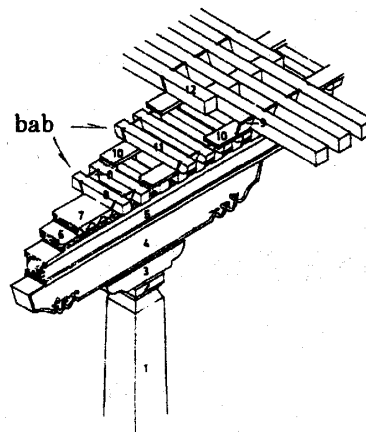


図-4 短垂木 出典：応 1993

表-7・3 【垂木】 【天井板】 (形態素) 語彙例

語彙	ランク	意味
phyam stegs	B	梁(垂木を支える)と壁
lcam dral	C	垂木とその上の板、姉妹
dral lcam	C	垂木とその上の板
dral phyam	C	垂木とその上の板
thog ras	Cm	天井布

「天井板」の基本語彙は gral ma (sA) であるが、これは先ほどでも述べた“「垂木」の上に割った木片、細丸木を並べる”である。従って厳密には板でない場合が多い。この語彙は辞書(中国語訳)では、「蓋頂短木・椽上木板」としているの、正しくは「天井板(垂木上の木片)」としたほうが正確だろう。「天井板」の基本語彙(表-7・2)には gral ma (sA) がある。この他に、ほぼ同じ発音の語彙 dral ma (C) がある。この二つの語彙は[形態素-B]として gral (3 語彙)、dral (8 語彙) がある(表-7)。「天井板(垂木上の木片)」の[形態

素] 語彙として dral bshags (D)、drel hril (D) があるが、この bshags は「(木を) 割る」、hril 「丸い」の意味であり、具体的に「天井板」の違いを説明している語彙である。

gral ma が全ての辞書に記載されている (sA ランク) 語彙であるのは不思議な気がするが、実は gral ma に関しては英語の辞書《N.G》も含めて《C》《J》《D》《G》全て 'small beam (or beam), rafter' の説明があり「垂木」と誤解を招く。《大》では「蓋頂短木」としているので「天井 (垂木上の木片)」で間違いはない。gral bu (D) は《C》では 'a lath, a long thin slip of wood' 「垂木上の木片」の説明がある。

ところでもう一つの [形態素] thog であるが、この語彙は本稿では述べていないが「屋根」や「階」の [形態素] 語彙として多く使われる語彙なので、[形態素-A] [形態素-B] の語彙数は大きく違っている。この thog はいわゆる「天井板」としての語彙として使われ、thog pang (Cm) (thog 「上」+pang 「板」) は、文字通り「天井板」である。又、gnam yol (Cm) (gnam 「空」+yol 「幕・カーテン」) も「天井板」であるが、これはチベット建築においては天井に布を張っている場合があるためであろう。

[形態素-B] の語彙で phyam stegs (B) は (4) 【梁】でも考察したように、語意「(垂木) 支える」であり「垂木」語彙を主体としている。又、チベットの諺に「梁、椽齊備、美宅建成」があると言われているが (西藏布達拉宮維修工程施工辦公室 1996, 24)、このような事はチベット人にとって「垂木」は重要な物とみなしているからであろう。lcam と dral を組み合わせた語彙 (表-7・3) に lcam dral (C)、dral lcam (C)、dral phyam (C) がある。これらは「垂木とその上の板」を一つのものとして表わしている。そして、lcam dral は「姉妹」の意味もあり、lcam だけで「妻 (敬)」の意味もある。先に述べた gdung は「氏族」、ka ba は「四弟子」の語彙を形成している。R.A. スタンも指摘 (スタン 1993, 128) しているが、家屋構造の語彙が人間関係を表わしている。

5 考察およびまとめ

本稿は以下のようにまとめることができる。

チベット建築 (「壁・柱・梁・垂木」等) のチベット語での表記が明確になった。及びこれらからチベット建築の特徴も明らかになった。又、チベット人の壁、柱等に対する思惟方法を考察する事ができた。具体的には以下のような事である。

- 1) 「壁」を表わす主な語彙には rtsig pa と gyang があるが、チベット人はこの2つの語彙の使い方は区別している。石やレンガで「築く壁」の場合は rtsig を使い、土を突き固める「版築壁」の場合は gyang を使う。rtsig dpon 「棟梁」などのように「職人」の語彙には rtsig を使っている。また「間仕切壁」のような場合は skya も使われる。ただし「壁面」などとして使う場合は、これらは同じように使われている。この他にも「壁」を表わす語彙は多くある。
- 2) 「柱」を表わすチベット語は ka ba である。「壁」などが多くの言い方があるのに比べチベット語で「柱」は ka (ba) に限られている。又、「柱」の固有名詞が辞書に収録され

—チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)—

- るなどチベット人にとって「柱」語彙 ka は特別なものである。
- 3) チベット建築の特徴の一つに多角形の柱がある(八角柱 ka ba zur brgyad pa)。
 - 4) チベット建築では柱を「建物(部屋)の広さ」を表わす単位として使っている。ka mig 「柱間面積」などは、その語彙である。又「四柱八梁」、ka bzhi gdung brgyad はチベット建築(部屋)の一つの形式である。
 - 5) 「梁」を表わす語彙は gdung ma が使われるが、他の語彙もある
 - 6) チベット建築では「梁」の上に横架材「垂木」を並べている。「垂木」の語彙はほぼ発音が同じ lcam, phyam の語彙があるが、この二つの語彙の使われ方の違いは無い。「垂木」は日本建築などに比べても大きくチベット建築では主要な部材である。これは又、チベット人の「垂木」に対する意識は強い。
 - 7) 「垂木」lcam と「梁」の間にさらに「短垂木」が二段入っている場合がある。又、窓・門の藕の部分にこの「短垂木」、bab が二段(三段もある)入っている場合もある。チベット建築において「垂木」は、構造材としてだけでなく、意匠上も重要な意味を持っている。
 - 8) チベット建築では「垂木」の上に割った木片、細丸木を並べて、天井を作るがこの部分「天井板(垂木上の木片)」は gral ma、又 dral ma と言う。
 - 9) lcam dral は「姉妹」、又 lcam だけで「妻(敬)」、gdung は「氏族」を表わすなど、チベット人にとってこれらの語彙は人間関係をも示す語彙である。
 - 10) チベット建築は柱上部「柱頭」がありその上に「肘木」が載って梁を受けている。この部分は日本建築などより発達していて、チベット建築の特徴の一つでもある。「肘木」を表わす語彙は ka gzhu 又、gzhu である。「柱頭」としては bre も使う。

略語表

- 《C》 Csoma de Kőrös. A. *A Dictionary of Tibetan and English*. 1834. (Reprinted: New Delhi: Cosmo Publications, 1978) .
- 《D》 Das, Ch. *A Tibetan-English Dictionary*. Calcutta, 1902. (Reprinted: 臨川書店, 1979) .
- 《G》 Goldstein, M. C. *Tibetan-English Dictionary of Modern Tibetan*. Kathmandu: Ratna Pustak Bhandar, 1975.
- 《J》 Jäschke, H. A. *A Tibetan English Dictionary*. London: Routledge & Kegan Paul, 1881. (Reprinted: 1977) .
- 《N.G》 Goldstein, M. C. *The New Tibetan-English Dictionary of Modern Tibetan*. University of California Press, 2001.
- 『王統記』 索南堅贊『西藏王統記』西藏人民出版社、1985。
- 《五体》 古文義 等摘編『御制五体清文鑑』青海民族出版社、1990。
- 《蔵》 格西曲吉札巴『蔵文辞典』(1949 原書)、民族出版社、北京、1957、(『増訂蔵文辞典』、山喜

——チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)——

房仏書林、1972)。

《大》 張怡蓀 主編『藏漢大辞典』民族出版社、北京、1985。

《翻譯》 榊亮三郎『梵藏漢和四訳対校 翻譯名義大集』国書刊行会、1981、(初版 1916、原本 1962)。

《拉》 于道泉 主編『藏漢対照 拉薩口語詞典』民族出版社、北京、1983。

文献表

Hoshi Michiyo & Tondup Tsering

1978 *Zangskar Vocabulary: A Tibetan Dialect Spoken in Kashmir*. (Monumenta Serindica No.5). 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。

Jest, Corneille

1981 *Monumente of Northern Nepal*. UNESCO.

井上えり子

2000 「木雅チベット族の住居の空間構成 中国の古羌系民族の住居と集落に関する研究 その2」『日本建築学界計画系論文集』第530号、pp.111-118。

応兆金

1993 「藏族建筑の木結構乃其柱式」『古建園林技術』、1993/4、pp.13-16。

大岩昭之

1999 「チベット語辞書からの建築関連語彙の分析手法とその分析事例“テント”について」『日本西藏学会々報』第44号、pp.83-91。

2001 「チベット語に於ける“建物・家・すまい”を表わす語彙について」『日本西藏学会々報』第46号、pp.53-67。

2002 「チベット語に於ける“寺院”・“城塞・宮殿”を表わす語彙について」『日本西藏学会々報』第48号、pp.17-31。

黄誠朴

1981 「藏居方室初探」『建築学報』、1981/3、pp.64-70。

西藏工業建築勘测設計院 編

1988 『古格王国建築遺址』、中国建築工業出版社、北京。

西藏自治区建筑勘察設計院 他著

1999 『布達拉宮』中国建築工業出版社、北京。

——チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)——

西藏自治区文物管理委员会 編

1985 『布達拉宮』文物出版社、北京。

西藏布達拉宮維修工程施工辦公室 等編

1996 『中国古代建築 西藏布達拉宮』(上下)、文物出版社、北京。

宿白

1996 『藏傳佛教寺院考古』文物出版社、北京。

徐宗威 主編

2004 『西藏伝統建築導則』中国建築工業出版社、北京。

鄒洪燦

1992 「從西藏地震資料看藏族人民对地震的認識与防範」『中国科技史料』13、1992/1、pp.84-89。

スタン、R. A.

1993 『チベットの文化』決定版、山口瑞鳳・定方晟訳、岩波書店。

陳梅鶴

1986 『塔爾寺建築』、中国建築工業出版社、北京。

屠舜耕

1985 「西藏建築芸術」『建築学報』、1985/8、pp.22-29。

李允鉤 編著

1985 『華夏意匠』中国建築工業出版社、深圳。

李志武・他 編

1982 『塔爾寺』文物出版社、北京。

注

- (1) 《G》《拉》に収録されている語彙、ただし《C》《J》《D》《蔵》にあるものを除く。詳細は大岩(1999)参照。
- (2) 《N.G》は《G》の新版であり、語彙数は大幅に増えて8万語である。
- (3) 大岩(1999)の分類項目1-4-3、4壁・間仕切壁の語彙数を表にしたのが、表-2。
- (4) 大岩(1999)の分類項目1-4-1柱の語彙数を表にしたのが、表-3。

——チベット語の語彙によるチベット建築の考察(その1)——

- (5) 《D》では ka can bzhi の記載
- (6) 図の柱を八角柱とすると十六角柱（セラ寺大経堂・門廊）までである。なお、図の柱を十二角柱としている文献（徐 2004, 287）もある。
- (7) マルパ（Mar pa, 1012-1097）はカギュ派形成の端緒を作った。
- (8) ミラレパ（Mi la ras pa, 1040-1123）は宗教詩人として知られている。他の三人は、rNgog chos sku rdo rje, mTshur ston dbang gi rdo rje, Mes ton tshon po.
- (9) 大岩（1999）の分類項目 6-2-2 広さの語彙数を表にしたのが、表-4。
- (10) 《D》では 'the square space (of about twelve feet) enclosed by four pillars is called a ka-mig: the area or enclosure of a colonnade is measured by the ka-mig' と説明されているが具体的な面積ではないようである。
- (11) 大岩（1999）の分類項目 1-4-16 肘木・斗拱の語彙数を表にしたのが、表-5。
- (12) 《蔵》では pre phul の記載。
- (13) 大岩（1999）の分類項目 1-4-14 梁の語彙数を表にしたのが、表-6。
- (14) 他に採取した語彙では、柱（ka ba）、肘木（ka bzhi）、垂木（phyam thus）。
- (15) 大岩（1999）の分類項目 1-4-6, 15, 26 天井・天井板・垂木・野地の語彙数を表にしたのが、表-7。
- (16) 椽頭 babs は bab と同じ。

訂正: 大岩（2001）p.61, p.62（表 6-1）＜誤＞ chong khang; ＜正＞ tshong khang。＜誤＞ chong; ＜正＞ tshong。

大岩（2002）p. 26 ＜誤＞《格》; ＜正＞《蔵》, p. 30 ＜誤＞ Patna P.B.; ＜正＞ Ratna P.B.。